

製品名: CNOT2 (リン酸化Ser101) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04482

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CNOT2
別名	CNOT2; CDC36; NOT2; HSPC131; MSTP046; CCR4-NOT transcription complex subunit 2; CCR4-associated factor 2
遺伝子 ID	4848.0
SwissProt ID	Q9NZN8
免疫原	抗血清は、ヒト CNOT2 の Ser101 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 67-116

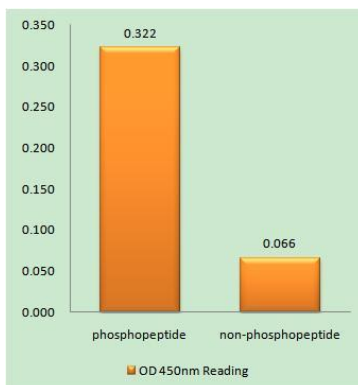
背景

CCR4-NOT 転写複合体サブユニット 2 (CNOT2) ホモサピエンス この遺伝子は、多成分 CCR4-NOT 複合体のサブユニットをコードしています。CCR4-NOT 複合体は mRNA の合成と分解を制御し、mRNA のスプライシング、輸送、局在にも関与していると考えられています。コードされているタンパク質はヒストン脱アセチル化酵素と相互作用し、ポリメラーゼ II 転写の抑制因子として機能します。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2010年12月],機能: CCR4-NOT 複合体は、一般的な転写調節複合体として機能する。 ,PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。 ,類似性: CNOT2/3/5 ファミリーに属する。 ,サブユニット: CCR4-NOT コア複合体のサブユニットで、CHAF1A、CHAF1B、CNOT1、CNOT2、CNOT3、CNOT4、CNOT6、および CNOT8 を含む。 ,組織特異性: 普遍的に存在する。脳、心臓、胸腺、脾臓、腎臓、肝臓、小腸、胎盤、肺、および末梢血白血球で高発現する。 ,

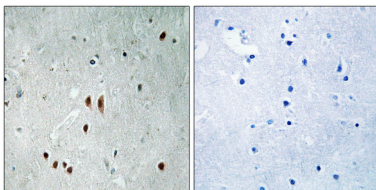
研究分野

RNA 分解;

画像データ



CNOT2 (リン酸化 Ser101) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



CNOT2 (リン酸化 Ser101) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。